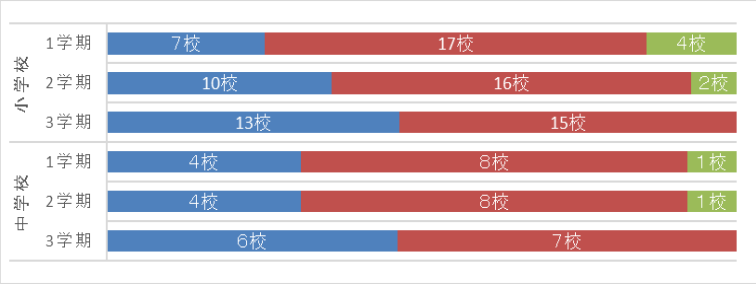
資料５

令和２年度いじめ防止対策改善プログラム自己点検シート（まとめ）について

できた	おおむねできた	やや課題がある	課題がある

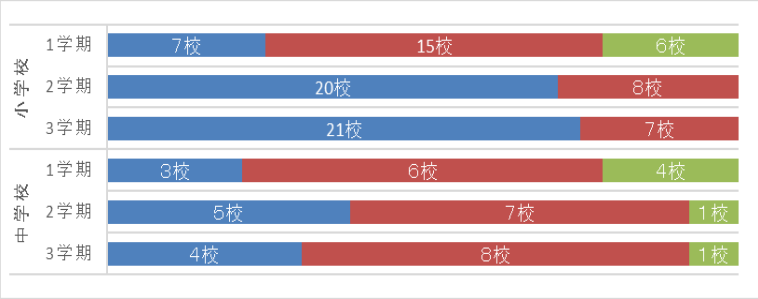
▲：課題があるとした学校からの意見

①互いに認め合い、支え合い、助け合う仲間づくりができたか



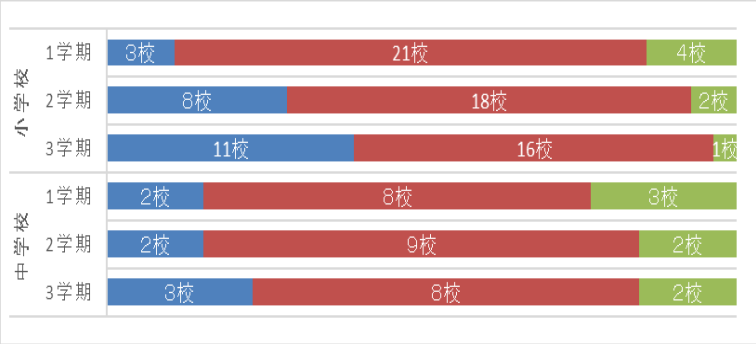
○児童会を中心とした縦割り活動を実施した。
○ユニットであいさつ運動を実施した。
○委員会主催の誕生日カード作りを行った。
○自己肯定感や自己有用感の高まりを目的とした取組の充実を図った。
○コロナ禍において子どもを交えて知恵を出し合い、活動の充実を図った。

②命や人権を尊重する豊かな心を育むことができたか



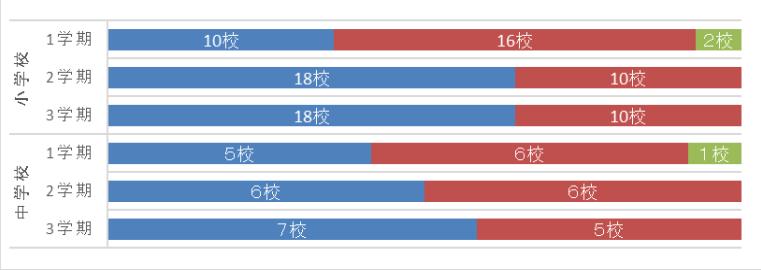
○命の集会、新型コロナウイルス感染症への理解を促す集会等、いじめの未然防止に向けた取組の充実を図った。
▲児童、生徒一人ひとりに合った対応を心掛けているが、児童、生徒の実態から求められている項目等について実施が難しい面がある。

③家庭や地域への働きかけができたか



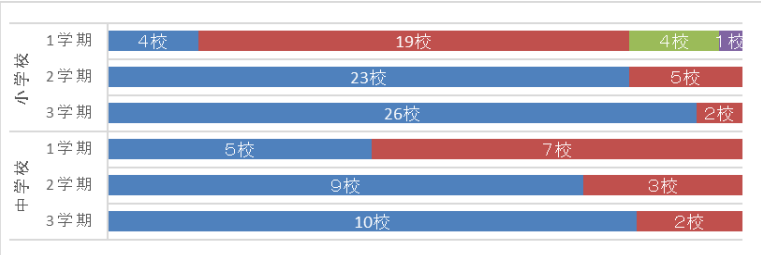
○参観日等の機会が減少した反面、それを補うためにＨＰやメールでの配信などの機会を充実させた。
▲ＨＰを通じて、家庭や地域に向けて人権やいじめについての情報提供や振り返り等を行い、いじめの未然防止に向けた連携を図っていく。
▲学校運営協議会やＰＴＡ総会等で内容を選択しながら伝えていく。

④学校環境適応感尺度「アセス」が適切に活用できたか　※加古川養護学校を除く



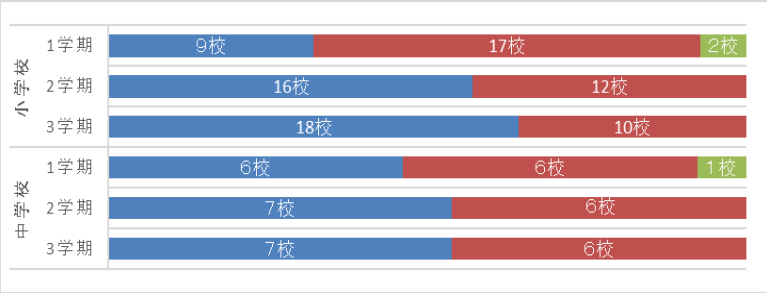
○全小・中学校でアセスを実施した。非侵害的関係の値に着目し、アセスメントを行うことで、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めた。

⑤児童生徒の相談行動の促進ができたか　※加古川養護学校を除く



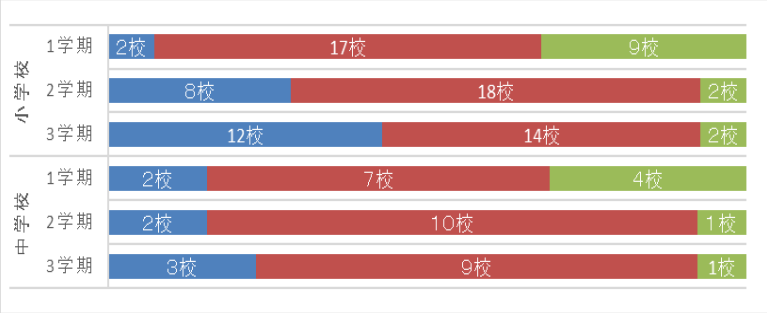
○全児童生徒を対象とした教育相談を実施した。
○学校独自のアンケートの実施、生活アンケートを活用し、生徒の変化を見守る体制作りを図った。

⑥双方向からの実態把握と情報共有がなされたか



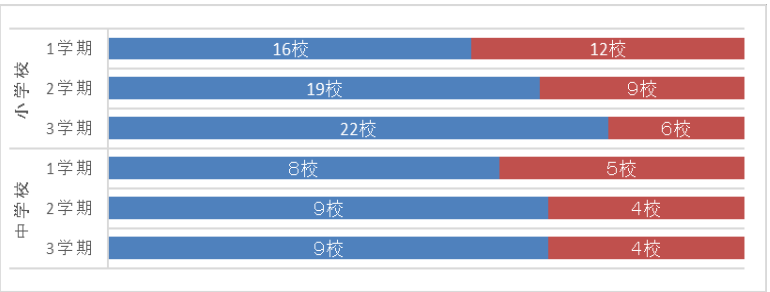
○学校のいじめ認知数と家庭の認識にずれがないか各家庭にプリントを通じて照会を行った。
○教育相談時に学級担任以外の相談窓口を準備した。

⑦研修の充実による教職員の資質と指導力の向上がなされたか



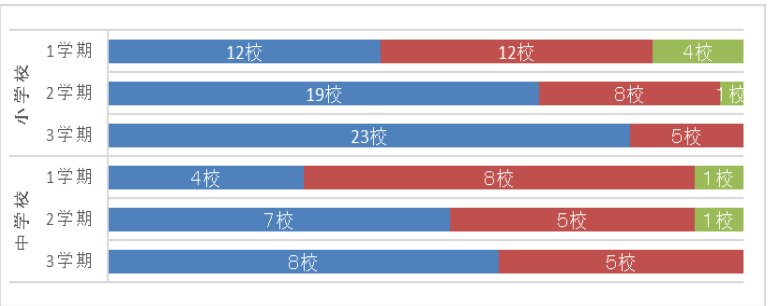
▲教職員の数が多く、密を避けるために令和２年度は研修を控えたがコロナ禍が落ち着けば研修等を計画・実施する。
▲校外研修への参加が出来ないので、校内でマニュアルを確認し、対策委員会としての取組を進める。
▲組織連携はできているが、様々な会議や対応と重なって十分な研修がもてていない。年間を通じて研修を計画的に実施する。

⑧「チーム学校」による組織的な対応がなされたか



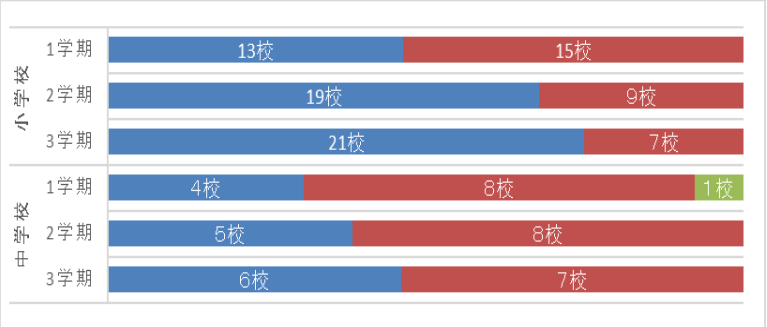
○ＳＳＷを活用し、不登校児童とその保護者へ各種福祉サービスへの接続を行った。
○気になる児童生徒について職員全体で情報共有し、いじめの未然防止に努めた。
○不登校、いじめへの対応について、学校全体で統一感をもって対応した。

⑨関係機関との連携を強化した取組がなされたか



○毎月、問題行動（いじめを含む）、不登校を市教育委員会へ報告し、必要に応じて対応を協議した。
○インターネットトラブル防止講座を実施した。

⑩推進体制・検証体制を整える取組がなされたか



○「いじめ」に対する教職員の認識をさらに変え、より些細な友人間のもつれやトラブルに対してもいじめとして捉え、「いじめ見逃しゼロ」に向けて取り組んだ。